

極小規模校の特性を生かした、特別活動の充実
～自己のよさや、可能性を発揮できる生徒の育成を目指して～

十島村立中之島中学校 教諭 西村 太希

【推薦のポイント】

- 本論文は、学習指導要領解説特別活動編に示されている「学級活動」における学習過程を基盤として生徒の主体性を育てながら、授業や地域活動などの様々な場面で生徒が取り組んだ内容をまとめた、価値ある論文です。
- 特に、研究計画に基づき年間を通して研究実践を継続していること、生徒個々の個性に応じた関わりを工夫したこと、応援演武等を学習の場として学習過程を構成し観点を踏まえた評価まで行っていること、他島との遠隔授業での学級活動を展開してきていることなど、幅広く実践を積み上げ成果を収めていることが、よく分かります。

目 次

1	主題設定の理由	1
(1)	社会の動向から	
(2)	本校の実態から	
2	研究の構想	1
(1)	研究のねらい	
(2)	研究の仮説	
(3)	研究の計画	
3	研究の実際	2
(1)	生徒の課題の把握と、個性の理解	
ア	生徒の姿から課題を把握する	
イ	個性の理解とソーシャルスキルトレーニング	
(2)	運動会における「応援演舞」	
(3)	他島との合同道徳と学級活動	
(4)	集団の連帯感を深める「文化祭」	
(5)	学校で学んだことを生かす「子ども会」	
(6)	将来の生き方を学ぶ「ようこそ先輩授業」	
(7)	人権週間で取り組んだ「ありがとうの木」	
4	研究のまとめ	9
(1)	仮説に関する成果	
(2)	中学3年生の様子から見える成果	
(3)	研究の課題	
(4)	来年度に向けて	
○	参考文献	9

1 主題設定の理由

(1) 社会の動向から

今の子供たちが成人する頃には、厳しい時代を迎えていると予想される。グローバル化の進展や技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。

このような時代にあって、学校教育は、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

そのため、特別活動が目標としている「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いの良さや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成すること」は、中学校卒業後必ず島を離れて生活する生徒にとって特に必要であると考え、主題に設定した。

(2) 本校の実態から

本校は、小学生 10 名、中学生 4 名の極小規模小中併設校である。また、家庭、地域との関係性が深く、学校行事などは、地域住民も積極的に参加している。そのため、普段から異年齢集団と活動することが多く、特別活動が目指す資質・能力の視点である「社会参画」「人間関係形成」について、育成の機会や環境が恵まれているといえる。

一方で、限られた人間関係のため、児童生徒の役割が固定化し、従来どおりの活動に取り組むことが多いことから、自ら主体的に意思決定したり、これまでに経験したことがない活動に意欲的に取り組んだりする姿は少ない。また、授業研究において、児童生徒の姿を見取りながら授業を分析してきたが、その際以下のような意見が出された。

- ・ 児童生徒が発表する際、発言が止まったり、互いに意見を出しあうことが少なかったりした。そこで、他者との協働を通して、意欲的に活動に取り組むような機会を充実させてみてはどうか。
- ・ 児童生徒が、どのように学習を進めればよいか、思いつかない姿が見られた。そこで、多くの経験を積ませ、主体的に学習方法や活動の解決方法などを選択させる場面を増やしてみてはどうか。

このような意見から、授業法改善の視点だけにとどまらず、さらに特別活動の方法原理である「なすことによって学ぶ」機会を充実させることで、生徒のよさや可能性を發揮できるのではないかと考えた。そこで、極小規模校の特性を生かしながら、特に、特別活動が目指す資質・能力の視点である「自己実現」の育成を目指し、副主題を「～自己のよさや、可能性を發揮できる生徒の育成を目指して～」と設定した。

2 研究の構想

(1) 研究のねらい

特別活動を充実させ、生徒が主体的に活動に取り組む態度を育て、授業や地域行事など、多方面で生徒のよさや可能性を發揮させ、自信をつけさせる。そのために、学習指導要領で示されている「学級活動における学習過程」を基盤に、様々な活動に取り組ませることを通して、他者と協働させたり、自ら学習方法や解決方法を選択させる場面を充実させたりする。その際、コーチングの考え方を取り入れ、各生徒の個性を生かした活動につながるよう声掛けや助言を行っていく。

(2) 研究の仮説

他者と協働させたり，主体的に学習方法や解決方法を選択させたりすることで，授業中や地域行事など，多方面で生徒のよさや可能性を発揮できるのではないかと。

(3) 研究の計画

時期	内容	特別活動の視点	関連教科等
1 学期	(1) 生徒の姿から，課題を把握し，研究内容を設定する。またコーチングの考え方を活用して，生徒の個性を理解し，ソーシャルスキルトレーニングに取り組ませる。(学級活動)	人間関係形成	特別支援教育
9・10 月	(2) 運動会における「応援演舞」に取り組ませる。(学校行事) (3) 他島との合同道徳で学んだ内容を，学校生活に生かすための方法を考えさせる。(学級活動)	人間関係形成 自己実現	道徳
10・11 月	(4) 文化祭を通して，連帯感を深めさせる。(学校行事)	自己実現	理科・音楽
11・12 月	(5) 地域とふれあう活動を企画・運営させる。 (6) 将来の生き方について考えさせる。(学級活動)	社会参画 自己実現	総合的な学習
12 月	(7) 人権週間に関する活動に取り組ませる。(生徒会活動)	人間関係形成	人権教育

3 研究の実際

(1) 生徒の課題の把握と，個性の理解

ア 生徒の姿から課題を把握する

本年度はコア・スクール研究指定，エリア指定校として，学力向上における校内研究に取り組んだ。その授業研究では，授業中の生徒の姿から，課題を把握し，改善策のアイデア等を協議した。そして，以下の流れで課題を把握した。

① 生徒の姿から課題を把握する。

② 目指す生徒像に近付けるためのアイデアを書く。

- ・生徒の個性を検査する。
- ・とりあえず活動に取り組ませる。 など

③ 短期的・長期的に目標を設定する。

図 「展望シート」を活用した，生徒の姿の課題把握から，目標立案までの様子

イ 個性の理解とソーシャルスキルトレーニング

研究協議の結果、まずは教師が生徒の個性を把握し、個に合わせた指導が必要だと考えた。そこで、「令和4年度 部活動指導者研修会」で学んだ、タイプ別コーチングの考え方を取り入れた。以下のアンケートに答えることで、生徒のおおよそのタイプが分かり、タイプに合わせた指導方法や、声掛けを行うように意識した。

1 以下の文章を読んで①よくあてはまる、④全然当てはまらない のどちらかを選ぶ。				
1 自己主張することが下手だと思う。				1, 4
2 常に未来に対して情熱を持っている方だ。		1, 4		
3 他人のためにしたことを感謝されないと悔しく思うことがある。			1, 4	
4 嫌なことは嫌とはっきり言える。	1, 4			
5 人にはなかなか気を許さない。				1, 4
6 人から楽しい人とよく言われる。		1, 4		
7 短い時間にできるだけ多くのことをしようとする。	1, 4			
8 失敗しても立ち直りが早い。		1, 4		
9 人からものを頼まれると、なかなかノーと言えない。			1, 4	
10 たくさんの情報を検討してから決断を下す。				1, 4
11 人の話を聞くことよりも、自分が話をしていることの方が多い。		1, 4		
12 どちらかという人見知りなほうだ。				1, 4
13 自分を他人とよく比較する。			1, 4	
14 変化に強く適応力がある。		1, 4		
15 何事も自分の感情を表現することが苦手だ。				1, 4
16 相手の好き嫌いにかかわらず、人の世話をしてしまうほうだ。			1, 4	
17 自分が思ったことはストレートに言う。	1, 4			
18 仕事のできばえについて人から認められたい。			1, 4	
19 競争心が強い。	1, 4			
20 何事も完全にしないと気が済まない。	1, 4			
計算式	11—	12—	13—	13—
タイプ	C	P	S	A
2 それぞれの列の数値の合計を計算式に従って引き算する。				
3 一番高い数値になったものが、その人のタイプになる。				
タイプ	特徴			
C…コントローラー	人から指図されるのを嫌う、トップダウン型リーダー。行動的で野心的な起業家タイプ。弱みを見せたり、甘えたりするのは苦手。			
P…プロモーター	注目こそがやる気の源。エネルギッシュなアイデアマン。新しいことに挑戦することは得意だが、持続は苦手。社交的だが人の話を聞かない。			
S…サポーター	ビジネスより「人」優先。「和」を重んじる気配り上手。協調性があり温かく穏やかだがリスクを冒すのは苦手。人からの承認を求める。			
A…アナライザー	客観的な視点で問題解決を行う完全主義者。行動より計画・分析の理論派。変化や混乱に弱い。感情表現が苦手な孤立しても気にならない。			

図 タイプ別診断の方法と、各タイプの特徴

本校生徒は4名中、3名がサポーター、1名がプロモーターであった。これらのタイプを生かして、タイプ別の付き合い方を学ぶソーシャルスキルトレーニングを、学活の時間に取り組んだ。ただし、タイプはあくまで個性の一部であって、決めつけた考えで他者と接しないように注意した。

内容 (以下 教…教師の発言 生…生徒の発言)	
<p>1 トレーニングの方法を説明する。 上手な頼み方スキルを高めよう。</p> <p>教…「今日は上手な頼み方スキルの練習をします。皆さんは、文化祭で劇をすることになりました。しかし、誰も主人公をしようとはしません。友達に主人公になってもらうように頼むとき、どのように頼みますか？考えてください。」</p>	
<p>2 ロールプレイを行う。</p> <p>教…「それでは、二人一組になって、お互いに、主人公になってもらうようにお願いしてください。お願いされたとき、どんなことを思ったか、感想を言い合ってください。」</p> <p style="text-align: center;">～ ロールプレイ ～</p> <p>生…「私は、お願いされたときに、理由を明確に言ってもらおうと、引き受けようかなという気持ちになりました。」</p> <p>生…「私は、丁寧に頼まれると、あまり心地のよい気がしませんでした。」</p>	
<p>3 振り返る。</p> <p>生…「心地よいと思う頼まれ方は、人によって違うということが分かりました。」</p> <p>教…「そのとおりです。相手の個性を理解して、頼み方を変えられるようになるとコミュニケーション力も高くなります。最後にタイプ別におすすめの要望の仕方をご紹介します。」</p>	
コントローラー	<p>お願いしない。根拠を示して要望する。</p> <p>例「○○」という理由で、○○をやっていただきたいのですが。」</p>
プロモーター	<p>細かいことは言わずに、ざっくりと。信頼を伝えてお願いする。</p> <p>例「あなたしかお願いできる人がいないんです。」</p>
サポーター	<p>IやWeの立場でお願いする。</p> <p>例「これをしてくれると、みんなもとても助かる。」</p>
アナライザー	<p>正当な根拠とリスクを明らかにして手順を示して依頼する。</p> <p>例「リスクはあるけどやってみる価値はある。明日までに返事が欲しい。」</p>

図 ソーシャルスキルトレーニングの流れとタイプ別回答例

このように、相手の個性を考えて、コミュニケーションをとっていくことの大切さ、難しさを感じさせた。今後の学校生活で、相手や自分の個性を考えて、協働できるように意識させた。

また本校生徒は、人間関係が長く変わらない状況に慣れているため、高校進学後、人間関係づくりに戸惑う生徒が多い。そのため、新たな人間関係をつくるためのソーシャルスキルトレーニングも取り入れていく。



写真 頼み方を考えている様子

(2) 運動会における「応援演舞」

昨年度までは、中学生が8名在籍していたが、今年度は半分の4名である。4名での応援演舞をどのようにしたら迫力のあるものに仕上がるか、以下の学習過程をたどり、話し合わせ、意思決定、合意形成を図らせた。

学習の過程と内容		
学習過程	内容	資料
問題の発見、確認	1 先輩たちが残してきた①応援団長ノートを見て、どのような応援演舞にしたいか決める。 生…「今年は4人しかいないから、誰かに頼りながら演舞をつくろう。だれに何を頼もうか。」	①R4 応援団長ノート 
解決方法の話合い	2 演舞の構成と役割を話し合う。 生…「今年は、太鼓を保護者や6年生にお願いしてはどうか。また、太鼓の負担を減らすために音楽を取り入れてはどうか。」	②演舞の写真 
解決方法の決定	3 演舞の構成と役割を決定し、保護者や6年生に依頼する。 生…「太鼓を保護者や6年生にお願いして、4人でもかっこいい演舞にしよう。」	③R5 応援団長ノート 
決めたことの実践	4 演舞の練習に取り組み、運動会本番で披露する。	
振り返り	5 応援団ノートに次年度の応援団長に向けてメッセージを書く。また、文化祭では、どのように頑張りたいか考えさせる。	
活動内容を充実させるための教師の働きと評価の観点（一部）		
内容	教師の働き	評価の観点
1	2020年から団長の思いや練習内容などを書き伝えている応援団長ノートを活用し、これまで重ねてきた演舞への思いをどう引き継いでいきたいか考えさせる。	昨年度の取組を振り返り、今年はどうしたいか積極的に考えることができたか。
2	話合いの中で、安易に誰かに頼ろうとするのではなく、自分たちの役割を明確にしたうえで、足りないところをどうするか考えさせる。	生徒一人一人が本番の目指すべき姿を想像しながら考えているか。
5	応援団長ノートに書かせるときは、反省点や、うまくいったところなどを具体的に書かせる。また演舞終了後の思いなども書かせる。	未来の応援団長に役立てようと意識して、書こうとしているか。
全体	サポータータイプの生徒が多いことから、練習時は、「みんなで一緒に作り上げよう」という意識をもたせて声掛けした。	互いの良さを認め合いながら、活動に取り組んでいたか。

図 「応援演舞」における学習過程と教師の働き方や評価の観点

(3) 他島との合同道徳と学級活動

道徳科の授業で学んだ道徳的価値の理解は、学級活動の目標における、よりよい生活態度を身に付けることと密接な関りをもっている。

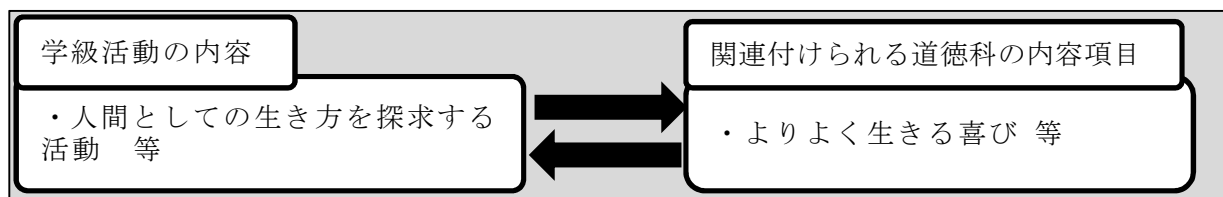


図 特別活動と道徳の関連項目例

また、本校の中学3年生は9年間一人学級であり、これまで道徳の授業で他者と協働する経験が少なかった。そのため、他島との合同授業を年間12回計画した。他者との議論で気付いた価値を、実生活に生かせるよう、以下のように道徳と学活を関連付けた。

東京書籍 道徳3年 「好きな仕事か安定かで悩んでいる。」	
内容	
1	<p>問題を考える。</p> <p>教…「安定はしていないが好きな仕事と、安定はしているが、あまりやりたくない仕事のどちらを選んだほうが良いですか？」</p>
2	<p>教科書中の新聞投稿の中から、一番共感した意見を選び、理由を書く。</p> <p>生…「私は、やりたいことを喜んでやる方が、はるかに多くを成し遂げられるという意見に共感しました。理由は、やりたい仕事にはやりがいを感じると思ったからです。」</p> <p>生…「私は、まずは、好きなことよりも安定した職業に就いて、生活の基盤をしっかり作るという意見に共感しました。理由は、やりたいことも収入が安定しないとできないと思ったからです。」</p>
3	<p>「やりたい仕事派」と「安定派」の立場に分かれて、メリット、デメリットを議論する。</p> <p>やりたい仕事派…「安定派の人に質問です。やりたくない仕事を続けることは苦痛になって、続かないのではないですか？」</p> <p>安定派 …「最初はやりたくいと感じていても、その中からやりがいを見つけることもあると思います。では反対に質問です。やりたい仕事でも収入が不安定だったら好きな仕事も嫌いになるのではないですか？」</p> <p>やりたい仕事派…「あなたの意見について納得しました。質問についてですが、好きなことなので、嫌いなところもカバーできると思います。」</p> <p>安定派 …「分かりました。」</p>
4	<p>教師の説話を聴き、感想を書く。</p> <p>教…「今回は、価値観を広げてほしくて生き方を二択にしましたが、実際はいくらでも自分の力で生き方を決めることができます。自分らしい生き方とは何か見つめながら、進路選択をしていってくださいね。」</p>




図 小宝島中学校2名と本校生徒1名との合同道徳の流れと様子

「あなたの働く理由って？」

内容 ※破線は、道徳との関連を意識した活動や発問

1 小宝島中学校との合同道徳の様子を振り返る。

生…「前回の授業で、色々な意見が出て、どれも納得いくものでした。自分がどんなことを大切にしていきながら進路を選べばいいか難しいと思いました。」

教…「そうですね。それでは今日は具体的に、自分はどんなことを大切にしながらどんな職業、高校を選択していきたいか考えて行きましょう。」

2 教科書に記載している働く理由・価値観を読み、自分が最も共感する意見について考える。

生…「私が最も共感した価値観は、『他人にどう思われようと自分らしく生きたい』『どこでも通用する専門技術を身に付けたい』という意見に共感しました。理由は、自分の好きなことでやりがいを見つけないかと思ったからです。」

教…「あなたは、道徳でも自分の好きなことを生かしたいと発言していましたね。あなたが目指している職業は好きという気持ち以外にどんなことが必要ですか。次の価値観リストに順位を付けて行きましょう。」

生…「私が希望する職業は『大工』です。大工は自分の個性や性格が生かせる仕事だと思います。また、たくさん大工がいるので、自分の創造性が必要だと思いました。」

教…「他の職業に求められる価値観と比べて何か気付いたことはありますか？」

生…「たとえば教員は、安定していて、社会奉仕の役割が大きいこと。デザイナーは、求められる価値観が大工とほとんど同じだと気が付きました。」

生徒が考えた大工に必要な価値観

価値観	順位	価値観	順位
経済	3	協働	6
社会性	8	変化	4
安定	10	人間関係	7
出世	5	創造	2
個性	1	環境	9

3 本時のまとめをする。

生…「職業によって求められる個性や考え方は変わるということに気付きました。これから、高校を選択するときは、自分が本当に学びたいことやどんな人が向いているのか考えながら決めていきたいです。そして、自分らしい生き方ができるようになりたいです。」

図 学活の流れとワークシート

道徳と関連付けながら考えさせることによって、単に意思決定にとどまるだけでなく、道徳の内容項目である「よりよく生きる喜び」について意識させながら考えさせることができた。また実際に進路先の高校を考える学習では、たくさんの情報を収集してまとめられるよう、「志望校レポート」を右の写真のように作成させた。

レポートは、下級生に向けて発表させることで、進路を選択する方法がたくさんあることに気付かせ、下級生が進路学習に取り組む際に役立てた。



写真 志望校レポート発表の様子

(4) 集団の連帯感を深める「文化祭」

今年度は、臨時免許を取得し、音楽の授業も担当している。専門知識や経験が少ない教員が、質の高い演奏指導を実現するにはどうしたらよいか考えた。そこで、生徒と話し合い、中学部職員全員参加して演奏に取り組むことになった。各楽器に担当教師・生徒を割り振り、パート練習後に全体演奏を繰り返すことで教師、生徒が一体となった発表につなげることができた。



写真 演奏の様子

(5) 学校で学んだことを生かす「子ども会」

「子ども会」とは、本校児童生徒と保護者によって組織される。学校とは別に、子供主体で地域にふれあったり、様々な体験活動に取り組んだりしている。学校の特別活動に身に付けた資質能力を生かし、主体的にイベントの企画・運営に取り組んでいた。



写真 地域とグラウンドゴルフ

(6) 将来の生き方を学ぶ「ようこそ先輩授業」

総合的な学習の一つに「ようこそ先輩授業」がある。本校の卒業の卒業生、または島内で生活されている方々に、「どのような人生を歩んできたか、進路選択をどのようにしてきたか。」など話していただいた。

島には基本的に会社はなく、畜産や農業に従事している方が多い。島ならではの魅力を見だし、挑戦的に取り組んでいらっしゃる方々の講話は、生徒の心に深く響いていた。

これらの講話の内容は、適宜思い出せるよう、教室後方の進路コーナーに掲示し、学習意欲が低下しそうなときなどは、短学活時に振り返れるようにした。

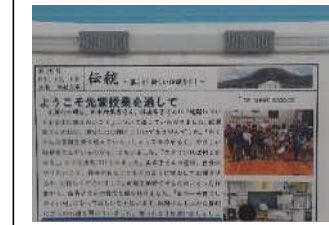


写真 講話の様子と進路だより

(7) 人権週間で取り組んだ「ありがとうの木」

本校は小学3年生～中学3年生の異年齢集団で、児童生徒会が組織されている。月に一度、児童生徒会活動として集まり、月目標に対して、活動の具体策を考え、実践、振り返りを行っている。12月の人権週間では、「ありがとうの木」に関する活動案が合意された。校種を越えて、お互いに感謝のメッセージを書くことができていた。これらの活動も、学習指導要領で示されている学習過程をたどることで、自主的な活動につながっている。また、月に一度、児童生徒集会を設け、完全に児童生徒だけで会を運営する機会を取り入れている。



写真 ありがとうの木

4 研究のまとめ

(1) 仮説に対する成果

生徒が、特別活動を通して身に付けた資質は、授業中や地域とのふれあい活動など、様々な場面で発揮され、生徒も達成感や充実感をもつことができていたと考える。

表1 学校生活アンケートより※5段階評価の平均値

質問内容	保護者回答		生徒回答	
	1学期	2学期	1学期	2学期
※下記は生徒向けの文言。保護者向けは別文言。				
自分の仕事を一生懸命がんばることができましたか。	4.0	2.0	3.8	4.7
みんなと仲良くできましたか。	4.7	4.0	4.5	4.8
進んで発表ができましたか。	4.0	2.3	3.8	4.2
学校が楽しいですか。	5.0	3.7	3.5	4.4
家庭学習を頑張りましたか。	2.7	2.8	3.3	4.1

学校生活アンケートの結果から、2学期に様々な活動に取り組むことで、生徒自身成長を感じているのではないかと考える。

(2) 中学3年生の様子から見える成果

本校の中学3年生は、限られた人間関係の中で9年間過ごし、かつ常に一人学級の状況であった。そのため、初めて児童生徒会長として活動するときなどは、不安を感じていた。しかし、他島との合同授業に取り組んだり、よく知った人間関係の中でも、改めてコミュニケーションの取り方を学んだりすることで、たくさんの種類の活動に慣れていく様子が見られた。本生徒はサポータータイプであり、自ら率先してリーダー性を発揮することは少なかったが、下級生のことを優先して話し合ったり、声掛けしたりする姿が見られた。人前で話すことは苦手としていたが、「みんなと協力している」という雰囲気の中で活動に取り組んだため、次第に自信をもって話せるようになっていった。学習場面でも、発言や質問が多くなっていった。

(3) 研究の課題

表1からも分かるように、自主的に家庭学習を頑張ったり、進んで発表したりする姿勢はやや不十分であると考えられる。生徒の人数に対して教師、保護者の人数が多いので、大人の意見が先に取り入れられ、自主的に活動する場面が充実しなかったのではないかと考える。また、保護者の回答において数値が全体的に低くなっていたため、今後は家庭に生徒の成長が伝わるよう、連携を深めていく必要がある。

(4) 来年度に向けて

来年度は、生徒の主体性をより高めるため、生徒の活動に対して、教師が道筋や見通しを与えすぎたりしないようする。また、上手くいかなかった活動に対して、生徒が意欲的に改善に向けて話し合うような特別活動を充実させ、失敗を恐れず、立ち直る力を身に付けさせたい。

【参考文献】

- | | |
|--|-----------------|
| ○ 『中学校学習指導要領』 | 2017年 文部科学省 |
| ○ 『学級担任 これさえあれば！！4』 | 鹿児島県特別活動研究協議会 |
| ○ 『令和4年度部活動指導者研修会資料』 | 鹿児島県教育委員会 保健体育課 |
| ○ 『コーチング流タイプ分けを知ってアプローチすると上手くいく』Discover | 鈴木義幸 |
| ○ 『R3.4 コアスクールプロジェクト』 | 鹿児島県教育事務所 指導課 |